

修士論文要旨

現代の大学生における攻撃性の研究 ～愛着スタイルと友人関係との関連～

別府大学大学院 文学研究科 臨床心理学専攻

M1614004 仲道真里

現在の大学生において、対人的な問題や不適応の問題が近年多く起きている。現在の大学生の心理学的な具体的な問題としては友人関係の希薄さや引きこもりが挙げられる。岡田（2007）は近年、内面的友人関係を避け、友人から低い評価を受けないように警戒したり、互いに傷つけないよう、表面的に円滑な関係を志向する傾向を指摘している。さらに、人としての社会適応を求められる青年期では、反社会的な攻撃行動は減る。このように大学生においては少年よりも表立った攻撃行動が減り、あまり攻撃性が表出しないように考えられる。そこで本研究は、攻撃性、愛着スタイル、友人関係に関連した質問紙を用いて調査を行い、現代の大学生に現れる攻撃性の潜在的意識について検討した。

大学生 175 名（男性 106 名、女性 69 名、平均年齢 18.8 歳）を対象に質問紙調査を行った。質問紙調査では攻撃性、愛着スタイル、友人関係の尺度を用いた。攻撃性の尺度として濱口佳和ら（2016）の用いた能動的・反応的攻撃性尺度（42 項目 6 件法）を用い、愛着スタイル尺度として尾崎ら（2007）が用いた愛着スタイル尺度（17 項目、6 件法）を用いた。友人関係尺度として岡田ら（2007）が用いた友人関係尺度（35 項目、6 件法）を用いた。

今回の研究では大学生の攻撃性の意識、また愛着スタイル、友人関係の性差、そして攻撃性の意識を中高生と比較しつつ検討した。その結果、大学生の攻撃性の潜在的意識の男女の違いとして友人関係に問題があると考えられる。今回の研究で、愛着の安定している男性は攻撃性を持つことがあるが、積極性等のポジティブな攻撃性の一面であることが示唆されている。その一方で対人関係がうまくできず、「傷つけられることの回避」等のように「回避」してしまうと攻撃性が抑圧され、攻撃性が表出されるリスのあることが今回の研究で示唆された。女性において「回避」の特性を持つ人以外は主だった攻撃性が見られなかった。女性を中高生と比較しても「仲間支配欲求」も少なくなり、よりよい対人関係を得ることが出来ているため攻撃性の意識が少ないと考えられる。

以上のことから大学生の攻撃性意識が表出する潜在的な要因として①愛着スタイルの「回避」特性があるかどうか②友人関係がうまくいっているかという 2 つが考えられる。